

玉川大学リベラルアーツ学部における ダブルフィールド制への取り組み

2025年9月26日

2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議

玉川大学リベラルアーツ学部学部長
永井 悦子

目次

- 玉川大学の概要/人材育成像
- 玉川大学リベラルアーツ学部概要
- ダブルフィールド制への取組み
- 学際的な学びの実践例（１）（２）（３）
- ダブルフィールドを実施していく上での課題とその解消に向けた工夫

玉川大学の概要

■創立者 小原國芳

■所在地 東京都町田市

■沿革 1929年 玉川学園創立
(1947年 大学設置)

■学部・研究科

文学部、農学部、工学部、教育学部、
経営学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部
文学研究科、農学研究科、工学研究科、教育学研究科、教職大学院、
マネジメント研究科、脳科学研究科

■学生数 【学部】 6,092名 【大学院】 226名 (2025年5月1日)



玉川大学の目指すべき人材育成像

■玉川学園の教育理念「全人教育」

- 生まれながらにして誰にでも備わっている「真・善・美・聖・健・富」という6つの価値を調和的に伸ばすことを目指す
- その実践としての「労作」
「自ら考え、自ら体験し、自ら試み、創り、行うことによってこそ、真の知育、徳育が成就する」 玉川大学HPより

■Tamagawa vision 100(2029)

「学部横断型プログラムの開発」

- 学際的教員交流会の実施と学部横断型授業の運営組織の構築
- 実践的 **STREAM-Style** の教育プロジェクト基盤の完成
- コミュニケーション（共有手段）の充実
- **SDGs** をテーマにした学びの展開（「自然の尊重」の実践）

玉川大学リベラルアーツ学部概要

- 沿革 2003年 文学部リベラルアーツ学科
- 2007年 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科
- 2023年 ダブルフィールド制導入（現在3期目）

■学生数 658名（定員160名）

■人材育成に関するビジョン

価値観が多様化・複雑化した現代社会に柔軟に対応できる人材の育成

※複眼的な視野で物事を公平かつ客観的に判断できる人材

- 幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養するための教育を推進
- 学際的教養を実践、応用する機会として、体験型学修を取り入れる
- 地域や企業と連携し、知性と実践力、調和のとれたコミュニケーション能力の育成

ダブルフィールド制への取り組み

■ダブルフィールド制

- リベラルアーツ学部で学べる学問分野を四つのフィールドに
- 1年次：フィールドを選択するための基礎的知識を身につける
 - 2年次：選択した二つのフィールドを中心に学び始める
 - 3年次：ゼミ、オフキャンパススタディーズで学びを深める

Human（哲学、心理学等）

Society（社会学、国際関係、法哲学等）

Culture（宗教学、文学、日本語学、民俗学等）

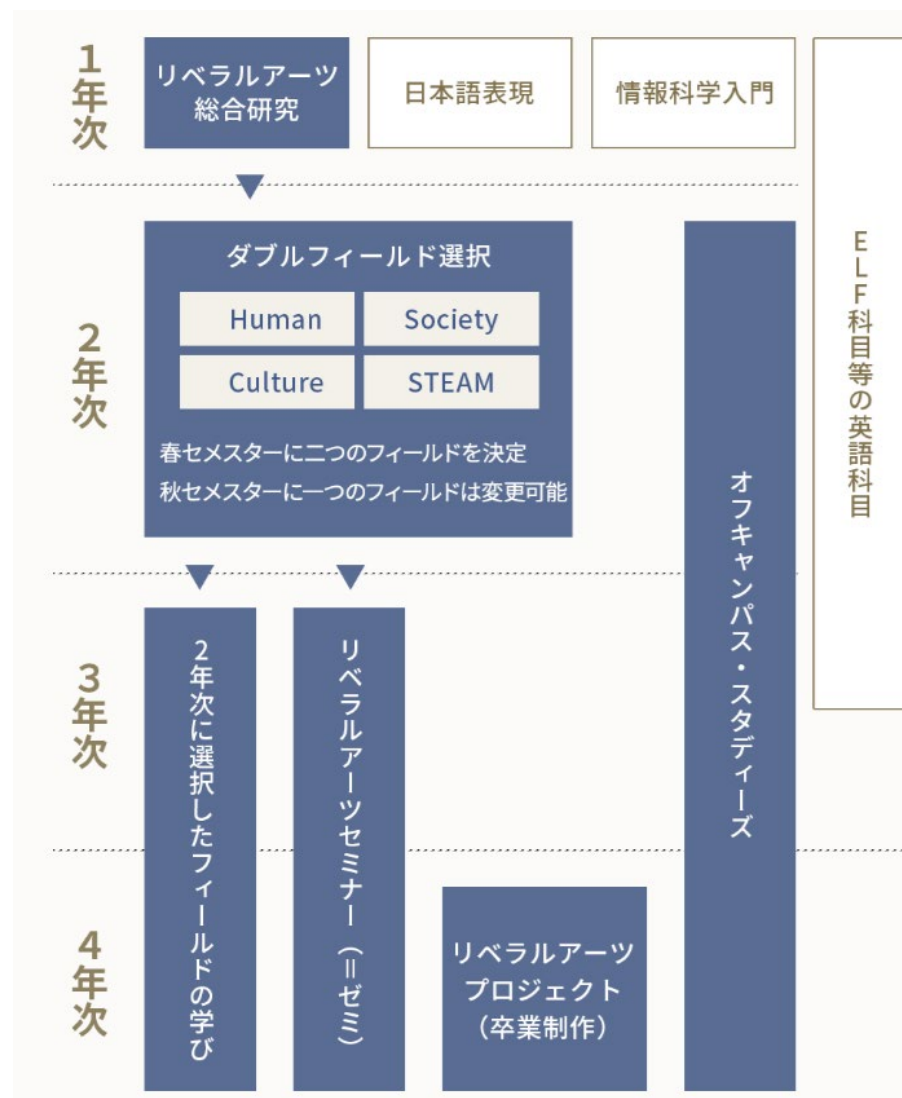
STEAM（情報学、環境学、芸術史、音楽学、
ポップカルチャー研究等）

- 2023年度より採用
※現3年生まで

学際的・文理融合

それ以前はメジャー選択制

広く・深く



学際的な学びの実践例（１）多様な学問分野を意識する

■ 「リベラルアーツ総合研究（A・B）」

- ※ 1年次必修
- ※ A：Human・Society
B：Culture・STEAM

【ねらい】

- (1) 2つのフィールドの研究手法、対象、研究事例を的確に理解できる
- (2) 複眼的視野から対象へアプローチすることの基礎を修得できる
- (3) 2年次以降に選択するフィールドを検討するための手がかりを得ることができる

例：2024年度 Societyフィールドの授業テーマ「たたかう」

テーマ	概要
貧困概念再考	貧困や格差は無くせるのか？そもそも貧困とは何か？本授業では多次元貧困、ジェンダーギャップ、人間開発、SDGs等の多様な指数を用い、貧困概念や格差是正について、多角的に検討する。
CRT(Critical Race Theory) 批判的人種理論から考える人種問題と分断	本講義ではアメリカ社会で根強く存在する人種差別問題と、アメリカ社会の文化的・歴史的背景に着目する。CRTでは、「人種差別の根源は、社会の仕組みや法律などに組み込まれている」と説明している。アメリカの実態と分断の狭間について考察する。
ヘイトスピーチと法	本授業では、人種・民族・性などのマイノリティに対する差別に基づく攻撃であるヘイト・スピーチおよびヘイト・クライムを取り上げ、我が国における刑事裁判の変遷と、法的規制の現状について学ぶ。
マートンの緊張理論と逸脱行動の類型	マートンの緊張理論と逸脱行動の類型について学ぶ。犯罪、政治的活動、職場と教育機関における組織内の行動など、さまざまな場面においてマートンの理論の応用性と妥当性を考察する。
セクシュアリティをめぐる抑圧と抵抗	セクシュアルマイノリティは社会が想定する「普通」の性から外れる人々とみなされ、強い抑圧が加えられ続けている。本講では多様な性のありようについて、抑圧とそれへの抵抗という観点から紹介する。
住民参加・市民参加と対抗的分業	住民の立ち退きなどを伴う開発事業は、当事者からの反発を招きやすい。本講義では交通開発を事例に、事業者vs住民という単純な対立図式では見えない問題を検討する。
「たたかう」をめぐって	6回にわたる講義を振り返りつつ、多様な他者と共在する中で「たたかう」こととは何なのか、またSocietyフィールドの特徴とは何なのかを、教員相互のディスカッションを通じて考える。

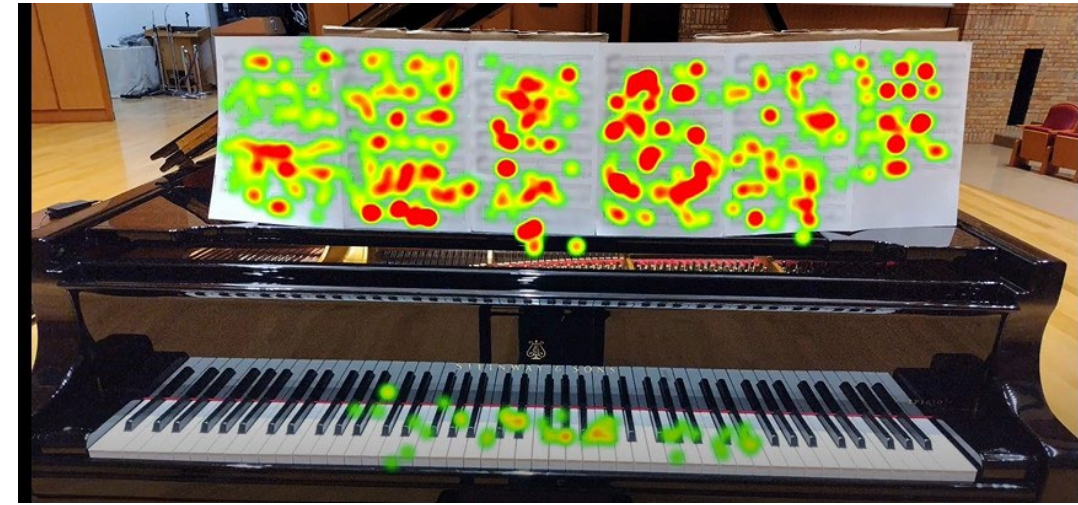
学際的な学びの実践例（２）他分野との融合を意識する

■「STEAMフィールド演習B」 ポピュラー音楽×情報学① 研究から授業化へ

ポピュラー音楽研究を専門とする教員と教育工学を専門とする教員による共同研究を基盤に授業化

【研究課題】

視線分析データを音楽教育に利活用する研究ノウハウを、発信力とICT力を必要とするメディア制作の授業に接続させる。



視線分析データ

「ポピュラー音楽×情報学」とキャリア

業種	就職割合	「ポピュラー音楽×DX」スキルの活用ポイント例
卸売・小売業	28.4%	トレンドと顧客行動を読む「感性×データ」が強い武器に
サービス業	10.8%	コンテンツ制作や演出のスキルが活かせる
情報通信業	☑5%	デジタルツールやITスキルを即戦力で活かせる
製造業	7.5%	UX/UIなどのユーザー体験における「感性設計」に音楽感覚が活きる
医療・福祉	6.7%	情緒や共感力、イベント力が必要で、音楽的バックグラウンドが強みに
教育・学修支援業	5.8%	STEAM教育の重要性が拡大しており、音楽でITを教える場面も増加

リベラルアーツ学部
就職実績（2021）参照

学際的な学びの実践例（２）他分野との融合を意識する

■「STEAMフィールド演習B」 ポピュラー音楽×情報学②「ラジオ番組制作」

【手順と使用ソフト】

- ①現代社会における問題を取り出す（Google Formを使ってアンケート、Perplexityなどで根拠のある調査）
- ②問題のデータを分析して、「世間にどう伝えるか」を考案する（Google FormやExploratoryで分析し、スプレッドシートを使って台本作成）
- ③セリフの考案にはchatGPTなどを活用、Wordで読み上げを行い、収録時間を確認
- ④出演者役はVOICEVOXを活用
- ⑤Bandlabを使って、音声収録とBGM、ジングルを作成
<https://www.springin.org/sound-stock/>など使用

学生作品



【学生のコメントより】

- パソコンのさまざまなソフトや機能を使うことで時間をかけることなく難しいデータを解析したり、簡単に機械音声や音楽を用いたラジオを作ったり、楽しい授業だった。
- 今回の講義で学んだ因子分析の仕組みは多面的に物事を捉えるリベラルアーツの根底にある仕組みのように思えた。
- AIは、けた外れにすごいことが分かった。

- 「ホンモノ」に取り組む
- ソフト・アプリの活用

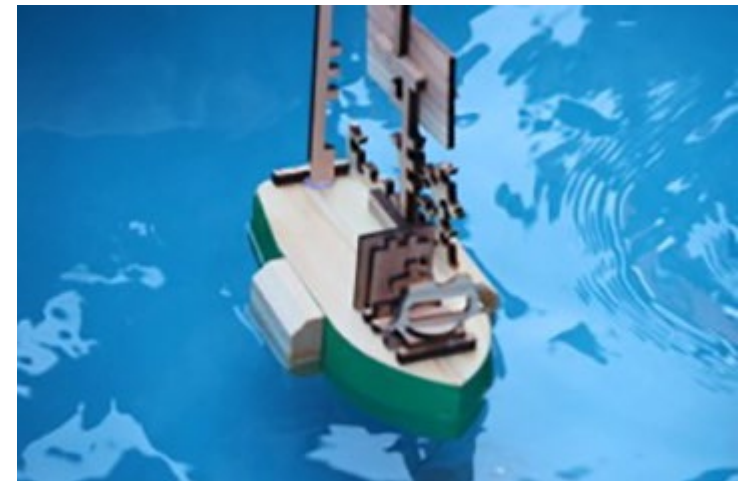
➤理系分野を得意としない学生も
容易に取り組むことが可能に

学際的な学びの実践例（3） PBLと文理融合

■「地域創生プロジェクト」北海道プロジェクト（全学年対象）

- 北海道茅部郡森町の小学生向けワークショップの展開
 - 玉川学園と森町の木材（端材）を利用した船の工作
 - ・使用する木材について知る（環境/SDGs）
 - ・船の形を意識して沈まない工夫をする（理系的学び）
 - ・端材を組み合わせ、創造性を楽しむ（Art）
- STEAMの学びを実践の場で学生自ら展開
- あわせて地域の課題も認識

地域研究と学際的学びの親和性



学際的な学びの実践例（４） 全学的な取組み

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

異分野融合のイノベーションを創出する人材を育成するESTEAM教育を推進している玉川大学は、全学部全学科を対象に、データサイエンス・人工知能（AI）に関する知識及び技術について体系的な教育プログラムを設けているとして文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」[に認定されています。](#)



（現在の認定期限：令和8年3月31日）

リベラルアーツ学部の認定者数
（2025年8月）

2023年秋セメスター 2名

2024年春セメスター 1名

2024年秋セメスター 13名

2025年春セメスター 17名

玉川大学ホームページより

ダブルフィールドを実施していく上での課題とその解消に向けた工夫

■課題① カリキュラム設計

- 学生にダブルフィールド・他分野（文理）融合を意識させることの難しさ
 - ⇐ カリキュラム設計・授業内容で意識付け
 - ※ 選択フィールドの学科必修科目の設定
 - 学際的科目の必修化
- 学際的（文理融合）授業の開発
- 基盤となる教養不足（他分野・文理融合に不可欠）
 - ⇐ 入門科目の整備
 - ⇐ 高等学校までの学びにおける基礎学力
- 人的・物的資源の限界
 - ⇐ 単位互換等、他大学との連携

■課題② 教員の意識

[研究面] 専門分野の細分化



[教育面] 学際的な視野、社会課題
（地域、企業）との連携

- ⇐ 学際的研究・教育の活発化
- ※ 学際的研究・教育への助成
- ※ 地域、産業界との連携への支援

■課題③ 社会（企業）の意識

- 専門性不足という中途半端な印象
 - ⇐ 「就職に不向き」という
 - イメージ払拭に向けた取り組み
 - ⇐ キャリア指導